



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

8 2008,AUGUST  
第1777回例会

平成20年8月28日



# 会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST  
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



2008年8月

## 会員増強及び拡大月間

会 長	越智 孝佳	広報委員長	久保 且佳
副 会 長	太田 万也	広報副委員長	堂山 啓太
副 会 長	神田 龍一	委 員	杉田 吉弘
幹 事	石原 英樹	委 員	安原 明彦
会 計	高田 晃一	委 員	飯田 正行
S A A	佐々木和彦	委 員	横田 幸宏
		委 員	上垣香世子
		委 員	小島 清司



## 会長報告

会長 越智 孝佳



皆さん、こんばんは。会長報告を申し上げます。  
8月も今週で終り、いよいよ9月。秋風もたつ頃になりました。寒い季節に向かっていくのは、何とも心淋しい感じもしますが、気を奮い立たせて頑張ってくださいと思います。

本日は、先ほどもご紹介いたしました、講師に小林様をお迎えしております。一昨年、私もモンゴルへ同行いたしました。私はスケジュールの都合で、3泊4日の予定しか取れず、最終目的地までは行けませんが、大変良い機会を得たと思っております。元々、私は外国の旅先の条件は、南半球、暑い、海、できれば車の通行が左…という選択条件がありました。ロータリーという関わりを持たなければ、まずは行く事のない国だったかもしれません。北海道に来た当初も、スケールの大きさに驚きましたが、モンゴルはそれを上回るものがありました。2泊目のゲルに宿泊する際は、本来2人宿泊用のゲルでしたが、我假を言ひまして、一人でゲルを使用させて頂きました。だっ広い草原の中で、満天の星…地球を感じるなら、一人で夜を過ごしたい…少々ロマンティックな気分でお願ひし、一夜を過ごす事ができました。行きは5人での珍道中。帰りは一人旅ということで、一度で二度異なる旅感覚を味わえたことも、一味違った思い出になっております。

ロータリーという関わりの中で、新しい経験とさせて頂いたと思ひます。ぜひ、皆様もロータリーの多くの部分に積極的な関わりを持っていただき、新しい発見、出会いを作ってくださいと思ひます。参加する、関わるということが、まずは入り口だと思ひます。

10月に釧路にて、地区大会が行われます。私達も2年後には大会を主管する重責を負います。会員の皆様には多く参加して頂き、これから迎えるガバナー輩出クラブとしての力にしてもらえれば有難い事と思ひます。まだ締め切りはきておりませんので、欠席で出されている方も、都合がつくようになれば、ぜひ出席をお願いしたいと思います。

この後、小林様よりモンゴルのホットなお話を聞かせて頂けると思ひます。昨今のモンゴル情勢も変化があるかと思ひます。どうぞ、宜しくお願ひ申し上げます。

以上で会長報告とさせていただきます。ありがとうございます。

## たいまつ宣言

この「たいまつ宣言」は創立30周年にあたり、西ロータリークラブの創立の心を知るところから発し、我々が未来へ向けての道標とするものである。たいまつのように我々の行く道を照らし、明るい未来へと導くものである。

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

## 出席状況報告

月/日	7/3	7/10	7/17	7/24	7/27
例 会	1770回	1771回	1772回	1773回	1774回
総会員数	72名	73名	73名	73名	73名
計算に用いる出席数	65名	66名	66名	66名	66名
ホームクラブ出席	53名	49名	52名	51名	43名
メークアップ参加	9名	14名	11名	4名	10名
欠 席 者	3名	3名	3名	11名	13名
出 席 率	93.38%	95.45%	82.54%	83.33%	80.3%

## ニコニコ献金

8月28日 9,000円 累計 100,000円

## 今月の主な行事

- 8月 7日 誕生・結婚祝
- 14日 盆休み
- 21日
- 28日



点鐘 越智孝佳会長  
開会宣言 北川勝啓副SAA  
ロータリーソング (我等の生業)  
ゲスト紹介 越智孝佳会長  
小林志歩様 (元読売新聞大阪本社記者)

(会食)  
会長報告 越智孝佳会長  
会務報告 山本範之副幹事

①帯広西RC、家族野遊会開催のご案内

<雨天決行>

日 時 平成20年9月7日(日)午前10時～午後2時

場 所 帯広緑ヶ丘公園

集合場所 帯広百年記念館1階ロビー付近

尚、9月4日(木)の繰り下げ例会と致します。

内容 9:30～10:00 受付

10:00～ 例会セレモニー

10:30～ 登録別行動

(Aコース・Bコース)

12:00～ バーベキュー懇親会

(グリーンステージ)

子供縁日

14:00 閉会

※雨天時には別プランがあります。受付は同じ所、時間に集合願います。

Aコース：パークゴルフ大会(豪華景品あり、道具は、各自ご用意下さい)

Bコース：動物園・百年記念館常設展示室周遊見学(無料共通券による解説付き)

②帯広RC、移動例会開催のご案内(家族野遊会)

日 時 平成20年9月7日(日)午前8時30分

場 所 糠平温泉文化センター

※尚、9月10日(水)の繰り上げ例会と致します。

③帯広南RC、移動例会開催のご案内(家族野遊会)

日 時 平成20年9月7日(日)午前10時

場 所 グリーンパーク

※尚、9月8日(月)の繰り上げ例会と致します。

④帯広北RC、夜間例会開催のご案内

日 時 平成20年9月12日(金)午後6時30分

場 所 ホテル日航ノースランド帯広

⑤帯広西RC、夜間例会開催のご案内

日 時 平成20年9月18日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

⑥帯広南RC、9月15日(月)は祝日のため休会と致します。

⑦帯広東RC、9月23日(火)は祝日のため休会と致します。

⑧帯広西RC、9月25日(木)は休会と致します。

⑨帯広東RC、夜間例会開催のご案内

日 時 平成20年9月30日(火)午後6時30分

場 所 帯広ワシントンホテル



ニコニコ献金 親睦活動委員会 太田 豊副委員長

佐々木和彦会員 昨日、仕事で稚内に日帰りで行って来ました。900kmつかれました。

山本範幸会員 最終ホールOBをだして、西RCゴルフ同好会で「真ん中賞」を頂きました。

古田敦則会員 久々の出席で申し訳ありません。もう少し、まじめに頑張ります。ちなみに、今日は私の誕生日でもあるのでニコニコします。

久保忠正会員 連続ニコニコ献金が10回目になりました。ニコニコ献金はうれしい事が基本ですが…。皆様にいただいた拍手に感謝いたします。ありがとうございました。

プログラム 国際奉仕委員会 岡田武稔委員長

小林志歩(こばやししほ)さんは、京都出身、筑波大学卒業後、読売新聞大阪地方の記者をされ、モンゴルの日本語教師を経て2002年からスターデイ企画などのNGOにスタッフ、通訳をされています。モンゴルのチョロトゲンのハイルハンの子供を対象とした奨学金活動を立ち上げ代表を務めています。彼女は、ニューヨーク州の州立大学の特別教授であり、また、コロンビア大学の東中央アジア専門であるモリスロッサビの「現代モンゴル迷走するグローバリゼーション」の翻訳をされています。今晚は、最近のモンゴルの事情と私たちが支援している現地のアルハンガイケンの学校のことについて話をいただきます。ご清聴をお願いします。





お招きいただきありがとうございます。はじめに昨年度、ハイルハン子供応援奨学金に対する寄付に対して御礼を申し上げます。ありがとうございます。今日は、その奨学金を現地にどのように届けているかということ、またその奨学金を現地はどのように受け止めたかということをお伝えしたいと思います。モンゴルの最近の情勢も触れたいと思います。奨学金活動のちらしをお配りしていますので、参考にみてください。

今ちょうどモンゴルは、大相撲の巡業がウランバートルで行われています。先日、ワイドショーで歓迎会の様子が映し出されていました。力士の方が寒そうにしていたのですが、気温は最高20度、最低5度程度ということでした。昨日現地の新聞をみますと、私たちが奨学金活動を行っています首都から600キロ離れていますアルハンガイケンで25日に今シーズン初めて雪が降ったということです。そちらの最低気温は、すでにマイナスになっています。その中で、9月からモンゴルの新学期が始まります。

私たちの奨学金の取り組みについて説明します。どんな活動かといいますと、経済的事情で基礎教育を受けられない子供、つまり小学校に行けない子供が地域にいます。その子供達が小学校に行くためにかかる費用を奨学金として現地に送ろうということです。でも現金を、家庭とか子供に渡すのではなくて、学校を通じて必要な制服や文具などを届ける形で取り組みを行っています。実際は、昨年9月から今年の6月までの始めたばかりの活動です。その支援の仕組みは、3つの機能、支部に分かれています。1つは、日本で寄付金を集めて、現地の事情を知ってもらう活動です。ウランバートルに協力してくれるメンバーがいて、学校と私たちの間をつなぎ、現地の情報収集のお手伝いをしてれています。一番中心になるのは地域の学校と地域の人達による委員会ですが、その人達が、実際現地の子供達に接しているわけなのでニーズをくみ取ったり、実際に現物を手渡したりということをしたり、また大事なこととして私達に現地の情報を伝えるという役目を担っています。3つの部局が協同して、1つの奨学金を動かしているということになります。私たちの会は小さい会ですが、強みをPRさせて

いただきます。まず小規模なので効率が良いです。事務所も構えてなくて、誰も有給のスタッフはいません。完全にボランティアでやっていますので、いただいた寄付をそのままに近い形で、最低限の経費を除いて現地に届けることができます。とはいっても、どうしてもかかってしまう経費として、ウランバートルから現地の学校の様子を見てもらわなければならないとか情報収集してもらわなければならないので、現地のガソリン代などはかかってしまいます。私達の規約の中に、支援金の90%以上は、子供達のために直接使うというのがあります。最大限に、日本の方々のご支援の気持ちを現地にそのまま届けるという方針でやっています。具体的にどのようなことをしたかというと、今年度は7人の一年生、二年生の子供達に支援を行いました。家庭に恵まれない孤児や食えることがやっとの家庭の子供など6歳から8歳の子供達です。まず学期の始まる9月に教科書と制服と文具、カバンなどを支援しました。その後、現地の話し合いで冬に着る服や帽子、マフラーなどが不可欠という話がでましたので12月にその部分と長期休暇の間に家族のいる草原に帰る帰省の費用、そして春には春の服の支援をしました。モンゴルの地方の子供達は、学校が県とか郡の中心にしかありませんので自分達の住んでいる草原、たとえばハイルハンというのはその学校のある所から40キロ位離れていて、そこに家族は、羊やヤギを追って住んでいるんですけど子供達だけ学齢期の間は、知人の家や寄宿舎などに過ごしながら通学することになっています。そうした支援を行って、合計で今年現地の学校に送金したのは81万2千ツグルグという額になっています。これは、日本円で言いますと9万円程度です。それが、どのように現地で受け止められたかということをお話したいと思います。子供達の作文を校長先生が送ってくれました。その作文を読ませていただきます。これは二年生の女の子、オトオントヤさんが書いてくれた作文ですけど、学校生活についてという題です。

「このプロジェクトによって私の暮らしは大変大きく変わったと思っています。私の両親も本当に感謝しています。学校では、算数、モンゴル語などいろんな勉強をします。いつもがんばって勉強しています。私は、学校に通っていると思うと心からうれしく思います。あなた方の恩を一生懸命勉強することで返したいです。頑張って良い成

績をとって皆さんからバービー人形を買ってもらえますように。皆さん、私達の学校、本当にありがとう。』

という内容でした。こういった子供達が一生懸命勉強している様子を校長先生が実名入りで報告を送ってくれます。というような支援を行いました。私達の会の今年度の活動全体の状況をまとめてご紹介します。寄付を個人の方、帯広西ロータリークラブさんを含めて寄付額68万3千円をいただきました。今年使ったのが9万円です。現地からの報告によりますと、今後地域に経済的に恵まれない子供が何人いるかということ調べてもらったところ、今年度9月からあと3年度入学する人が15人いるだろうという見込みが届きました。それを試算しますと、120万円位かかります。今後とも、とにかく長く続けられるよう頑張っていきたいと思えます。現地からは期待高くて、今ハイルハンという小さな地区の子供達だけに限って支援をしていますが、もっと広げて郡内にもっと恵まれない子供がたくさんいるから支援してほしいと言われています。今は、ハイルハンバクの子供達に限って支援をしていくという方針でやっております。ちょうど私達のメンバーが明日から現地に行きます。9月の中旬にかけて現地の学校を訪問しますので、現地の声や情報を聞くことができると思えます。また、今後の活動についてもお伝えしたいと思っています。

実感として、始めの1年どうなるかと思っていたら、かなりきちんと現地からの報告もきまして、きちんと子供達に届いており、これからも現地の声に耳を傾けることを一番大事に取り組んでいきたいと思えます。

続いて、モンゴルの情勢にうつります。7月以降、モンゴルということニュースで見かけることが多かったような気がします。皆さんは、いかがでしょうか。まず大きなニュースとしては、選挙の後の暴動が日本の新聞でも大きく報じられました。5人の死者がでてしまった。ずっと与党だった革命党の建物が、焼き討ちにされてかなり大変な状況になっていました。選挙結果に満足できなかった野党が、貧困層、お金で動く人達を先導して暴動を起こしたのではないかとされています。選挙がどうしてここまでめたかといいますと、モンゴルのかかえる莫大な地下資源にあります。その開発を与党、革命党は、国の資源を国有化する方向を強めたいと考えており、野党の民主

党側は、ビジネスマン達で構成されているということもあって、利権の取り合いという事情が強く左右しています。

その裏には、外国の資源大手の勢力があるのではないかとされています。

それよりもっと大きなニュースとして、モンゴルで大変なことがあります。それは、私達の暮らしにも通じることですけれど、物価が非常に上がっているという状況です。日本の比ではありません。特に、小麦粉を中心とした食品、モンゴルは小麦粉を多く消費しますので、家計を直撃しています。小麦粉は今年初めから68%上昇しています。一部の情報では、何年か前と比較して3倍に上昇しているという数字も出ています。非常に大変な状況です。とはいえ、モンゴルも経済成長してきて、所得もここ数年上がっています。

現在、教師の給与が2万円程度の水準だそうです。数年前までは、1万円いかなかった位ですから非常に上がったのですが、それよりも、物価が上がっておりましてとてもおいつかないということが、友人や現地報道から伝えられています。一例では、ジャガイモが1キロ1500ツグルグ、ざっくり計算すると1桁のゼロをとってしまうと日本円になるので、1キロ150円、私たちがスーパーで買う値段になります。ガソリンの値上げも凄まじくて、1リットル1500ツグルグから1900ツグルグということになっています。

小麦粉やガソリンは輸入に頼っていますので、グローバリゼーションのあおりをくらっています。最近では、バス代も200ツグルグから400ツグルグに値上げされました。モンゴルでは、庶民の生活が非常に苦しい状況になっています。あと、教育関連のニュースでは、この9月から6歳からの就学、今まで11年の学生が12年になります。それに伴って、学校の設備投資が必要なのですが、国の財政が良くないので外国の援助に頼っていることがかなりあるということです。ジャイカでは、ウランバートルだけでも今後24校の校舎の建て替えと17校の校舎の増築を支援するという事です。私達のNGOの活動は、ODAが届かない地方の中でも子供達という一番被害者になりやすい部分に、直接届けるという気持ちでやっていきたいと思っています。

閉会宣言  
点鐘

北川勝啓副SAA  
越智孝佳会長